



追加のコール機能の設定

Revised: July 11, 2008

この章では、次に示すオプションの追加のコール機能について説明します。

- 3 者間 G.711 Ad Hoc 会議 : Cisco Unified Survivable Remote Site Telephony (SRST) による同時 3 者間会議のサポート。
- eXtensible Markup Language (XML) アプリケーション プログラム インターフェイス (API) : このインターフェイスは、Cisco Unified SRST から管理ソフトウェアにデータを供給します。
- Cisco Unified Survivable Remote Site Telephony (SRST) の Music On Hold (MOH) の統合 : MOH は、Cisco Unified SRST ルータのフラッシュ ファイルから、G.711、オンネット VoIP、および PSTN コールに対して使用できます。MOH の詳細については、[P.115 の「Cisco Unified SRST をマルチキャスト MOH リソースとして使用するための Cisco Unified Communications Manager と Cisco Unified SRST の統合」](#)を参照してください。

内容

- [オプション機能の設定方法 \(P.112\)](#)
- [関連情報 \(P.114\)](#)

オプション機能の設定方法

次の項では、オプション機能の設定方法について説明します。

- 3 者間 G.711 Ad Hoc 会議の有効化 (P.112)
- XML API スキーマの定義 (P.113)

3 者間 G.711 Ad Hoc 会議の有効化

3 者間 G.711 Ad Hoc 会議の有効化には、Cisco Unified SRST ルータがサポートしている同時 3 者間会議の最大数を設定する作業が含まれます。会議を使用できるようにするには、IP Phone の 1 つ以上のボタンに 2 つ以上の回線を接続する必要があります。P.66 の「第 2 発信音の設定」を参照してください。

要約手順

1. `call-manager-fallback`
2. `max-conferences max-conference-numbers`
3. `exit`

詳細手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<code>call-manager-fallback</code> Router(config)# <code>call-manager-fallback</code>	<code>call-manager-fallback</code> コンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 2	<code>max-conferences max-conference-numbers</code> Router(config-cm-fallback)# <code>max-conferences 16</code>	ルータでサポートされている同時 3 者間会議の最大数を設定します。最大数は、プラットフォームによって異なります。 <ul style="list-style-type: none"> • Cisco 1751 ルータ : 8 • Cisco 1760 ルータ : 8 • Cisco 2600 シリーズ ルータ : 8 • Cisco 2600-XM シリーズ ルータ : 8 • Cisco 2801 ルータ : 8 • Cisco 2811、Cisco 2821、および Cisco 2851 ルータ : 16 • Cisco 3640 および Cisco 3640A ルータ : 8 • Cisco 3660 ルータ : 16 • Cisco 3725 ルータ : 16 • Cisco 3745 ルータ : 16 • Cisco 3800 シリーズ ルータ : 24
ステップ 3	<code>exit</code> Router(config-cm-fallback)# <code>exit</code>	<code>call-manager-fallback</code> コンフィギュレーションモードを終了します。

例

次の例では、ルータに最大 8 つの同時 3 者間会議を設定します。

```
call-manager-fallback
max-conferences 8
```

XML API スキーマの定義

この項の Cisco IOS コマンドを使用すると、XML API に関連したパラメータを指定できます。詳細については、『[XML Provisioning Guide for Cisco CME/SRST](#)』を参照してください。

要約手順

1. `call-manager-fallback`
2. `xmlschema schema-url`
3. `exit`

詳細手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<code>call-manager-fallback</code> Router(config)# <code>call-manager-fallback</code>	<code>call-manager-fallback</code> コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	<code>xmlschema schema-url</code> Router(config-cm-fallback)# <code>xmlschema</code> <code>http://server2.example.com/</code> <code>schema/schema1.xsd</code>	この Cisco Unified SRST システムで使用する XML API スキーマの URL を指定します。 <ul style="list-style-type: none"> • <code>schema-url</code> : RFC 2396 で定義されたローカルまたはリモート URL
ステップ 3	<code>exit</code> Router(config-cm-fallback)# <code>exit</code>	<code>call-manager-fallback</code> コンフィギュレーション モードを終了します。

設定手順については、P.142 の「[Cisco Unified SRST MOH ライブ フィード サポートの設定 \(オプション\)](#)」を参照してください。

関連情報

MOH については、P.115 の「Cisco Unified SRST をマルチキャスト MOH リソースとして使用するための Cisco Unified Communications Manager と Cisco Unified SRST の統合」を参照してください。

Cisco Unified SRST の監視および保守については、P.227 の「Cisco Unified SRST の監視と保守」を参照してください。

追加情報については、P.25 の「Cisco Unified SRST の概要」の P.40 の「その他の資料」を参照してください。